



家庭読書の推進 万引き撲滅 インターネットトラブル防止

地域全体で青少年の健全育成を

先日、小林眞市長を会長とする「八戸市青少年問題協議会」が開催され、新年度の青少年健全育成の活動提言を協議し、取りまとめました。この提言は、八戸市の子どもを心身ともに健やかにたくましく成長させるために、家庭、学校、地域社会、企業、民間団体、関係機関に推進していただきたいことをまとめたものです。昨年度の活動提言に、下記の二重線部分が追加されました。

平成26年度 青少年健全育成の活動提言

活動提言「子どもたちは地域から育む」という視点による連携強化

〔提言内容〕

1 「さわやか 八戸 あいさつ運動」の展開

八戸市内すべての家庭、学校、地域社会、企業、団体等のあらゆる場面で、「さわやかなあいさつ」が飛び交うよう啓発・参加を呼びかける。また、家庭や学校で最低限の生活習慣を身に付けさせるための「返事をきちんとする運動」「履き物を揃える運動」と、クリーンなまちづくりを目指して「ゴミ拾い運動」を展開する。

2 青少年の健全育成の基盤となる「地域コミュニティ」の形成

- (1) 家庭や地域を巻き込んだ社会体験学習を展開する。
- (2) 青少年のボランティア活動の啓蒙を図るとともに、地域のボランティア活動への参加を促進する。
- (3) 社会人や地域人材の学校への活用を促進する。
- (4) 周りから子どもをサポートしていくために、日頃から地域住民や地域の諸団体、関係機関、学校などが連携し、情報を速やかに把握したり、巡回指導や声かけ活動をしたりする体制を整える。

3 健全な家庭づくりへの支援

- (1) 「家庭の日」運動等の実践を通して、健全な家庭づくりへの促進を図る。
- (2) 父親の子育て参画等を促進し、家庭教育の学習機会の充実を図る。
- (3) 子育てに関する体験や悩みが共有できる「乳幼児をもつ親たちの交流の場」の設定を図る。
- (4) 家庭での読書の推進を図り、子どもの豊かな心を育む。
- (5) 関係機関の広報啓発活動の内容充実と配付対象の拡充を図る。

4 体験活動の推進

- (1) 青少年団体における活動など学校外活動への参加を奨励する。
- (2) 自然体験活動を推進する。
- (3) 身近な体験活動の場の活用を図る。

5 いじめ問題、万引き、薬物乱用問題等、今日的な課題への適切な対応

- (1) いじめ問題の解決に向けた取組を図る。
- (2) 万引きやインターネットトラブル、喫煙、薬物乱用問題等への対応を図る。
- (3) 社会環境改善のための地域ぐるみの取組を図る。
- (4) いのちの教育を含めた「生き方に関する指導」の充実を図る。

「いつもいっしょ、本といっしょ。」

読書は、感性を磨き、思考力や表現力をつけるとともに、思いやりの心や想像力など豊かな心を育てます。子どもたちの人格を形成する上で、いずれも欠くことのできない大切な要素です。子どもの生活の場の基本である家庭において、自然に読書に親しむことができるようにすることはとても重要なことです。ここで、家庭読書の一つのヒントとなる記事を御紹介いたします。

読書好きにする秘訣、大公開！

作家 はやみねかおる

以前、ぼくは小学校の教師をしてました。そのとき、よく訊かれた質問に、次のようなものがあります。

「うちの子、ちっとも本を読まないんですけど、どうやったら本好きになりますか？」

「お母さんは、本を読むの好きですか？」

「わたしは嫌いです！ あんな面倒くさいもの」

（親が「面倒で嫌い」言うてるもん、子どもが好きにはならんて）—— という心の声を押し殺し、ぼくは答えました。

「まずは、お母さんが楽しく読書してる姿を見せてあげてください」

ぼくは、本好きです。

生まれたときから、周りに本がありました。つまらない本は放りだし、おもしろいと思った本だけをガシガシと読みました（おかげで、読書傾向が偏ってます）。だれにも「読め」と言われたことはありません。本を読むのが、おもしろくて楽しいから、自然に本好きになってました。

本は食事と似ています。

子どもは、おいしいものをよく知ってます。戸棚に隠しても、いつの間にか見つけ出し食べちゃってます。

でも、「これは体にいいから食べなさい」とか「栄養があるんだよ」、「食べないと大きくなれないよ」なんて言われ続けたら、どんなにおいしいものだって、ゲツソリして食べる気になれません。

本も同じです。

「頭が良くなるから」とか「読書感想文を書くために」なんて理由がつけられた読書—— 楽しいですか？ 特に現代は読書以外に楽しいことが山のようにあります。なのにわざわざ、グチャグチャ言われてまで本を読もうと思うはずがありません。

教師時代の話を最初に書きましたが、そのときにはなかなか言えなかった、子どもを読書好きにする方法を書かせてもらいます。

まず、いままでに読んでおもしろかった本を、できるだけたくさん用意します。イラストが素晴らしい本もいいですね。絵本でも哲学書でも、とにかく自分が楽しかった本を集めてください。

そして、その本を子どもたちに見せびらかしてください。無茶苦茶おもしろかったことだけを伝えて、本のあらすじは、あまり話さないでください。ポイントは、その本を読んでいる間、どれだけワクワクしたかを伝えることです。

子どもたちが「読んでみたい」と興味を示したら、こっちのもの。思いっきり意地悪な顔で「ダメ！」と言いましょ。

あとは、本を隠しましょう。隠してはあるけど、あくまでも子どもたちが頑張れば見つけられる場所がいいですね。

子どもたちが本を探し出せば、この方法は成功です。

「これでダメだったら、どう責任とるんだ！」と思われた方は、「子どもは本好きでないといけない」という強迫観念を捨ててください。その気持ちが、子どもから読書の楽しみを奪ってるように、ぼくは思います。

というわけで、子どもだけに本の楽しさを味わわせるのはもったいないです。このおもしろさを、まずは大人から楽しんでみませんか。